

中学生たちの取り組み

市立中学校では毎年平和学習を行い、戦争の悲惨さや平和の大切さを学んでいます。今回はそれぞれの学校の取り組みをご紹介します。

「難民支援と私たちにできること」について考える

潮見中学校 安達謙人さん・原口雄匡さん



国連UNHCR協会・芳島さんの講演会

潮見中学校では国連UNHCR協会の芳島さんを講師としてお招きし、講演会を実施しました。参加していた2人が感じた戦争と平和について語っていただきました。

安達：講演会での「難民になりたくてなっている

難民などいない」という言葉が印象的でした。また、世界には1億1千万人も難民がいることに驚きました。世界では様々な人種や民族、宗教観があって意見の違いから紛争が起きます。武力ではなく言葉での「対話」の方が平和的だと思います。平和な暮らしを守って行くためには「自分の周りの人への感謝」はとても大切。お礼や挨拶、感謝の言葉の積み重ねがコミュニケーションになり、争いを減らす一つの方法なのかなと思います。平和な日本から自分たちができることは、他の国を「支えてあげる」「寄り添ってあげる」ことだと思います。毎年8月には戦争や平和について放送されますが、深く考えたり調べたりする機会になると思います。日本の過去の負の歴史をしっかりと知り、自分の力で情報を得ることが重要だと思います。

原口：「難民の人たちは普通の人たちです」という言葉が印象的でした。日本の当たり前が実は特別であることを理解し、きれいな水や食べ物に「感謝」することが大切だと思いました。自分たちが住んでいる芦屋は戦争によってどんな被害を受けたのか、原爆や沖縄戦、現在にいたるウクライナ、ロシアの戦争など、沢山の事を学習してきました。当たり前ですが平和な世界は絶対に一番だと思います。戦争がひとつでもなくなる方向に世界がなればいいなと思います。



安達謙人さん

原口雄匡さん

戦争の悲惨さを肌で、全身で感じた「大和ミュージアム」

精道中学校 栗林佑宇さん

精道中学校では、修学旅行を「平和学習」として広島県呉市の「大和ミュージアム」と呉市内の散策へ行きました。



大和ミュージアム 戦艦大和の模型

大和ミュージアムでは、広島原爆被害や戦時中の生活、使用された兵器や戦艦大和の模型などを見たりして学びました。特に印象的だったのは、たくさんの戦死者の名前が刻まれた壁を見たことです。実際に壁に刻まれた名前を見て、こんなにも多くの方が亡くなったことを実感しました。戦争の悲惨さを肌で、全身で感じました。10分の1に縮小された戦艦大和の模型でしたが、とてつもなく大きく、戦争のスケールや被害の大きさを感じました。呉市内で大和の造船ドックを見学し、高い技術力に感動しましたが、それが戦争に使われるのは悲しいことだなと思いました。現在の平和な生活を守るために大切なことは、

戦争の悲惨さと平和の大切さを自分自身で知ることが一番大切だと思います。大和ミュージアムを訪れるなど自分でアクションを起こし、情報を得ることや過去を振り返ることが大切です。次に、知るだけで終わらせず、常に平和の大切さを身近に感じる事が重要です。友達や家族と「平和は大切だよ」という話を日頃からしていく。平和や戦争は大きなテーマですが、それを避けてしっかり話し合い、身近に感じる事が大切かなと思います。



栗林佑宇さん

戦争をしない世界ではなく、させない世界へ

山手中学校 修学旅行実行委員の皆さん

山手中学校では修学旅行で「平和学習」として長崎平和公園・原爆資料館へ行きました。

事前学習として、被爆を体験された方の講演を聴いて当時の様子や原爆の威力のほか放射線が人におよぼす影響などについても学びました。さらに、戦争とはどんなことか、なぜ起こったのか、戦争が及ぼした人や街への影響も班員で分



長崎平和公園 平和祈念像前

担して調べ、それを交流会で話し合い、改めて戦争の恐ろしさを学びました。長崎の原爆資料館で見たラムネびんは、原形をとどめないほどに变形しており、その変わり果てた姿を見た瞬間、恐ろしさを感じました。そして近年でも核実験が行われていることを知って驚きました。平和祈念像の力強さも印象的でした。その大きさと迫力から心に響くものがあり、ひとつひとつの動きに強い気持ちが込められていることを知りました。今ある平和な暮らしを守って行くためには、一人ひとりが異なる存在であることを認め合い、納得がいけないことがあってもすぐに争わずに、一歩踏みとどまることが大切だと思います。また、戦争の恐ろしさを知り、平和の尊さを世界



修学旅行実行委員の皆さん

中の人々に広めることです。戦争をしない世界ではなく、戦争をさせない世界にすることが大切だと思います。今回の修学旅行では、長崎市立西泊中学校とも交流を行いました。普段の生活を当たり前と思わず、感謝の気持ちを持ちながらつながりを大切に生きることが大事だと感じました。